

二階経済産業相の「医者モラル」発言への抗議声明

周産期医療を新生児医療の立場で担っている新生児科医集団として発言させていただきます。昨今、重症妊婦受け入れ困難事例が相次いで発生し、我が国の周産期医療体制の脆弱性が社会問題化しております。問題の端緒となった都立墨東病院の事例では、NICU が満床であるために受け入れを断らざるを得なかった施設が複数存在していたことが判明しました。近年の我が国における少子化の進行は顕著ですが、その一方で低出生体重児やハイリスク新生児の数は、その実数として年々増加しています。このため NICU の必要病床数は全国で 1000 床不足していると試算されています。さらに NICU で実際に赤ちゃん達を診療する新生児科医も全国的に極めて不足しています。我々新生児医療連絡会が行った調査では、我が国の新生児科医師の 1 ヶ月間の平均当直回数は 6.0 回、平均時間外勤務時間は 155.8 時間と過労死認定レベルを大幅に上回る水準にあり、また連続 40 時間以上の勤務も常態化しています。我が国の新生児医療・周産期医療は全国各地の新生児科医師及び産科医師の必死の努力により辛うじて支えられていると言っても過言ではありません。

このような状況にも関わらず、11 月 10 日に行われた舛添厚生労働大臣と二階経済産業大臣との会談において、二階大臣が「政治の立場で申し上げるなら、何よりも医者モラルの問題だと思いますよ。忙しいだの、人が足りないだのというのは言い訳にすぎない」と発言されたと報じられました。この発言は極めて厳しい条件下で必死に医療を支えている医師の使命感を踏みにじる極めて不適当な発言であると考えます。

解決すべき最大の問題は、新生児・周産期医療に関わる医師不足の解消をはじめとする医療体制の問題です。この問題の抜本的な解決なくして、現存する周産期医療における問題を解決することは不可能であると考えます。

この度の二階経済産業大臣の発言は、周産期医療の実態を理解しておられず、我々周産期医療に携わる医師にとって極めて遺憾であると言わざるを得ません。この発言に対し、我々新生児医療連絡会は強く抗議させていただきます。

平成 20 年 11 月 13 日

新生児医療連絡会

会長 梶原真人

役員一同